

行歯会だより 第181号

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会) 令和5年3月号



1 活動紹介

青年期からの健口力向上モデル事業

～大学生の歯科健診プロジェクト～ (P.1)

兵庫県保健医療部健康増進課 歯科口腔医務官 時岡 早苗

2 活動紹介

北海道と民間企業との取り組みについて (P.4)

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 健康づくり係 専門員 山上 かなな

3 都道府県 世話役のつぶやき (P.6)

岐阜県立衛生専門学校 歯科衛生学科 技術主査兼教務主任 安井 真奈美
福島県 郡山市保健所健康づくり課 主任 古川 利枝

1 活動紹介

青年期からの健口力向上モデル事業 ～大学生の歯科健診プロジェクト～

兵庫県保健医療部健康増進課 歯科口腔医務官 時岡 早苗



皆さまこんにちは。いつも行歯会を通じて貴重な情報をご提供いただき感謝申し上げます。昨年国の骨太の方針で、生涯健康に過ごすための「国民皆歯科健診」が話題になりました。

「歯と口の健康は1日にしてならず」。人生100年時代、後悔しないためには、生涯にわたる切れ目のない歯の健康づくりが大切です。

兵庫県では以前よりライフステージに応じた歯及び口腔の健康づくりに取り組んできましたが、今回はその中から平成30年度に実施した「大学生の歯科健診プロジェクト」をご紹介します。もっとも受診機会の少ない青年期をターゲットとした、今となっては「国民皆歯科健診」の先駆けとなった事業、かな？

大学生の歯科健康診査(以下、歯科健診)の実現に向けて

日本では青年期の公的な歯科健診がなく、兵庫県健康づくり実態調査(H28)における20代の歯科受診率は、全年代の中で最低でした。でも青年期は本当に歯や口のトラブルがないのでしょうか？

県職員の歯科診療や健診で「歯科は久しぶりです」と来院した新人職員には、むし歯や智歯周囲炎、歯肉炎が案外多いことがずっと気になっていました。

そこで、健康増進課歯科班では、大学内で定期健診と一緒に集団歯科健診を実施し、学生の口腔状況と意識変容を経年的に把握する計画を立てました。

県歯科医師会は成人式に「20歳の歯科健診」を啓発しており、神戸市歯科医師会では大学生の個別無料歯科健診に取り組んでいる区もあり、すでに乗り気でしたが、問題は「モデル大学」探しでした。助け船を出して下さったのは健康福祉部の部長です。「それは良い事業だね！」と目の前で担当課に連絡して下さり、モデル事業の相談先の大学も「ちょうど親知らずと歯並びの相談が多くて困っていた」と、トントン拍

子に話が進みました。しかし「モデル県立大学1校で3年間継続実施」して学生の口腔と意識の経年変化をみる予定だった計画が、年度末の土壇場で県知事の意向により「隣接する大学全てに1年だけ実施」と変更になってしまいました。実施する大学が急に4つ増え、各大学への説得を急ピッチで進めたものの、結果として日程・人材調整等全て不本意な実施となってしまう、学生の受診率にも大きく影響したことが残念です。

事業内容

(1) 歯科健診のモデル実施

- ①内容 学生定期健康診断実施日等に歯科健診を実施
- ②対象 県内モデル5大学の在校生 対象者数 10,199人
- ③実施方法

各大学の在校生（希望者＝受診者数 1,068人 内訳；男性339人、女性729人）に、問診と歯科健診・歯科保健指導を実施し、終了後にアンケートを実施しました。（回答率 95.8% 回答者数 1,023人）歯科健診はミラーを用いた視診のみの簡易法とし、学生の相談や、歯科保健指導を希望者（ほぼ全員）に行いました。

(2) 事後アンケートの実施

3か月後にウェブアンケートで大学歯科健診受診後の行動変容調査を実施しました。

（歯科健診受診者の回答率 11.6%＊ 全回答者数 322人）

＊歯科健診受診者で回答した者 124人/歯科健診受診者総数 1,068人

結果

(1) 受診率

学生の受診率は、定期健康診断と同日に歯科健診・歯科保健指導を実施した2校ではいずれも20%以上でしたが、別日実施校は0.4%～13%でした。

(2) 歯科健康診査結果

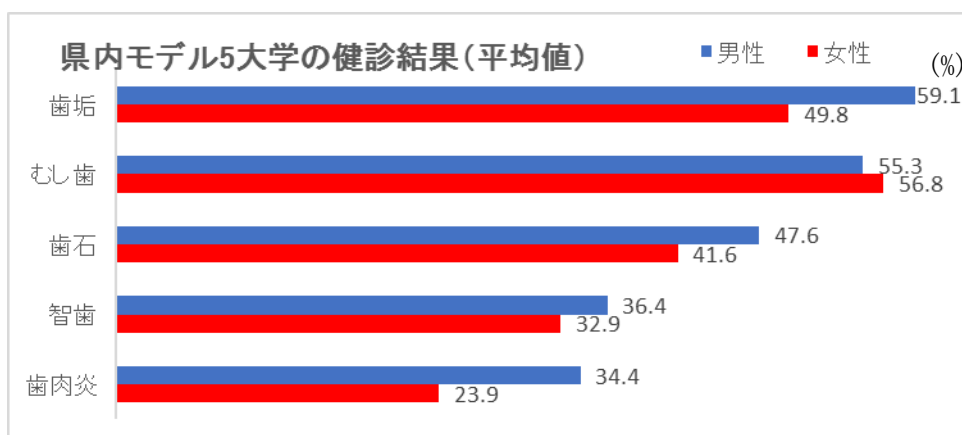


図1 歯科健診結果（むし歯は治療済みの歯を含む）

(3) 問診

気になることがあると回答した者（53%）の具体的な悩みは、多いものから順に外観、かみ合わせ、口臭、痛みでした。

(4) 受診直後のアンケート調査（回答者には歯ブラシ贈呈）

歯科健診を受診した満足度は95%、来年も96%が受診したいと回答しました。

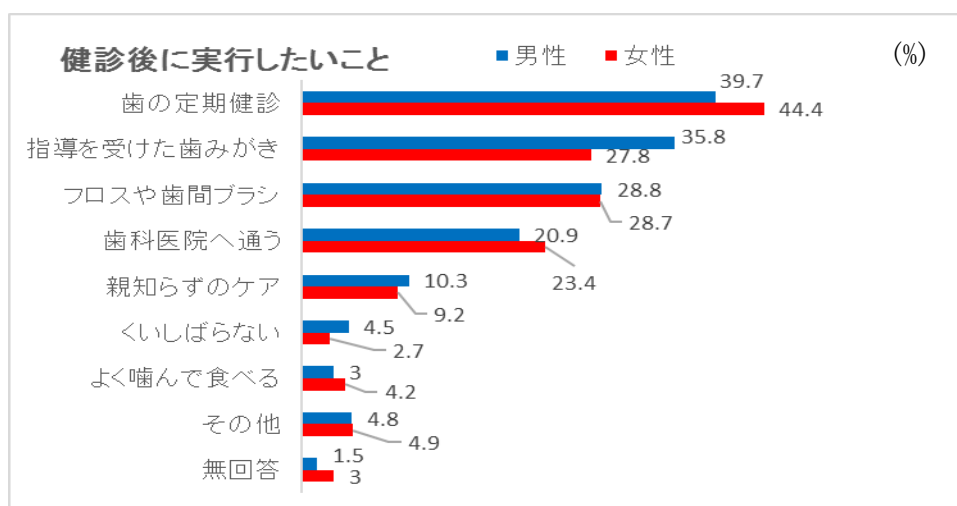


図 2 歯科健康診査等受診後に実行したいこと

(5) アンケート調査 2 回目 (3 ヶ月後) (回答者には携帯用歯ブラシセット贈呈)

歯科医療を受診した者は 30% (内訳は治療 43%、定期的な歯科健診 38%) であり、そのうち 6 割が「大学の歯科健康診査で必要性を感じたから受診した」と回答しました。

コラム 1. 実施して気付いたこと

1. 歯科健診会場は学生定期健康診断と同じ階に設定する (階が違うと受診しない)
2. 歯科健診は学生定期健康診断から +0.5~1 時間ずらした時間に設定する (歯科が定期健康診断後の場合)
3. 会場準備・後片付け・呼び込み等の人手を確保する (雇用歯科従事者には頼らない)
4. 学年により受診率に差がある (新入生と就活中の学生の受診率が高い)
5. 若者は、「おじさま」より素直で行動も早い (だからこそやりがいがある♪)

まとめ

大学生の歯肉炎有病率は約 3 割、なんとその割合は高 3 時代の 3 倍に急増していました。

むし歯有病率は、高 3 時代とほぼ不変でしたが、具体的には 1 人あたりの未処置歯は最多 11 本であり、3 割以上の学生がみがきにくい智歯を持ち、未処置歯はなくてもその 36% に歯垢等のみがき残しを認めたことから、青年期からの早期介入が必要です。

今回は視診のみの検査だったにもかかわらず、学生の満足度も次年度の希望も高く、大学生の歯科健診を希望する声は予想外に多いことが分かりました。さらに歯科健診時に画像ツールなどのオプションがあると、学生の好奇心をくすぐり受診率も上がりました。自分の症状が歯科医院に行くべきか迷っていた学生が多く、詳細な歯科健診や実地指導よりも、まずは相談内容の助言や定期的な歯科健診の必要性の啓発を優先したほうが、迷える大学生の心にダイレクトに響くことがアンケート結果からも読み取れます。

大学生の歯科健診は、自分の歯に関する相談や、歯と口腔の正しい知識をアップデートする良い機会になると考えられました。

その後の動向

県内の大学生に興味を持ってもらえるよう「歯の豆知識」+ 健診結果の概要を大学経由でメール配信し、兵庫県の HP の歯の健康サイトに誘導し、後日健口啓発冊子を作成・配布しました。さらに、県内の全ての大学の職員を対象に

「大学生における歯科保健推進研修会」を開催し、次年度からは歯科健診経費の半額助成を行いました。拒否する大学も多かったものの、今年も、コロナ禍に負けず7校が大学歯科健診を実施しています。

令和4年からは、学生の立場を優先し、「大学生による大学生のためのオーラルヘルスアップ事業」をスタートし、学生の視点から同世代に SNS 等を利用し歯と口の健康情報の啓発や各種イベントを実施しました。令和5年度はさらに他大学や世代を超えた活動展開を予定しています。

コラム 2. 歯科保健指導時の工夫

1. 指導は短時間で簡潔に（予防歯科のテキストを使用しフロス体験を含め5分程度）

2. お口が変われば指導も変わる

- ✓ 口腔優良者には、褒めて、さらに伸ばす（褒められるとさらにやる気が出る）
- ✓ 問題が見つかり不安な者には、「早く見つかって良かったね。今なら治るよ」と優しく促す

3. 口腔内スキャナーで興味津々

その場でスキャンした写真で、むし歯や歯の汚れが一目瞭然！（百聞は一見にしかず）

（大阪府歯科技工士会のご厚意により導入した大学の学生参加満足度は100%）

4. 歯医者さんはどこがいいの？と聞かれやすい

事前にお近くの歯科医院一覧表を準備しておくで紹介がスムーズ

詳しい内容は「兵庫県/歯の健康」をクリック！

兵庫県/歯の健康



2 活動紹介

北海道と民間企業との取り組みについて

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課

健康づくり係 専門員 山上 かな



〇はじめに

行歯会の皆様、いつも貴重な情報をいただきありがとうございます。歯科衛生士の山上と申します。平成26年（2014年）に北海道へ入庁し、行政歯科衛生士歴は9年目となりました。

今回、貴重な機会をいただいたので、北海道が令和3年度に株式会社ロッテ（以下、(株)ロッテ）と協働実施した「キシリトールプロジェクト」について情報提供させていただきます。

私の所属する地域保健課健康づくり係は、歯科専門職の他、管理栄養士、事務職で構成されており、当課の歯科業務は、歯科医師2名、歯科衛生士1名、事務職1名の計4名が日々連携しながら対応しているところです。

〇(株)ロッテと歯科の民間協働について

道では、多様化する住民ニーズに対応するため、民間企業等が有する資源と道が持つ情報やネットワーク、人的資源を結びつけ、地域の活性化や公共サービスの充実等を図るため、平成18年度から民間企業との協働事業を展開し、令和元年度には「ほっかいどう応援団会議」を立ち上げ、積極的に民間企業等の協働を推進しています。

当課と株式会社ロッテ（以下、(株)ロッテ）との協働連携は、令和2年度から始まり「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例」に基づき、8020推進週間（11月8日～14日）と併せて道内小売店のレジ前陳列棚でのPOP掲示やポスターによる普及啓発を行うこととしました。令和3年度からは6月の「歯と口の健康週間」においても同様の取組を実施しております。

道内小売店への POP 掲示は (株) ロッテが対応し、当課は道立保健所を通じて全道の市町村へポスター配布を行いながら普及啓発の一環として活用してもらうようお願いしています。また、(株) ロッテから (一社) 北海道歯科医師会を通じて、各歯科診療所等へもこの普及啓発ポスターが配布されています。

連携を進めるなかで、昨年度 (株) ロッテより、キシリトールプロジェクト※に関するご提案がありました。

※キシリトールプロジェクトとは

(株) ロッテ公式ホームページより引用)

「歯みがき・フッ化物・キシリトール」と「定期的な歯科健診」を日本でもっと普及させていく取組として「その歯と 100 年。キシリトールプロジェクト」を発足しました。このプロジェクトでは (株) ロッテが自治体や歯科医師会、市民の皆様と共にキシリトールを通じた「むし歯のない社会」を作り上げていくことを目指すもの。

(<https://www.lotte.co.jp/products/brand/xylitol/campaign/project/>)



当課としても、お子さんや保護者の方が歯を大切に考えるきっかけの一つとして効果的な取組であると判断し、各市町村へ情報提供を行うこととしました。

希望する全道の保育所幼稚園に対し希望調査を行った結果、11市町村 22 施設 1,473 名の児を対象とし、令和 3 年 10 月から本プロジェクトが開始となりました。

効果について (株) ロッテ担当者より「歯磨きの習慣がなかなか根付かず、困っていた施設が本取組を行うことで、積極的に歯磨きをするお子さんが増えたというご意見がある」旨ご報告いただいているところです。

その他 (株) ロッテと連携した取組として、むし歯予防啓発キャンペーンを行いました。北海道のテレビ番組において、8020 推進週間に関する啓発の一環としての PR を行うこととし、基本の歯磨きに加え、フッ化物の活用等に関する啓発を行った他、普及啓発イベントにおいて来場者へキシリトールラムネ試食の体験等を行いました。



○その他の民間企業との協働について

最後に、当課の管理栄養士が行っている取組をご紹介します。北海道健康増進計画「すこやか北海道 21」に基づき、北海道民の野菜不足の解消や健康的な生活の応援を狙いとして行う北海道、株式会社セコマ (本社: 北海道札幌市)、カゴメ株式会社 (本社: 愛知県名古屋市) の 3 者による『健康増進宣言』野菜を食べようキャンペーンが今年で 11 周年となりました。

イベントでは、店頭で野菜を多く使った商品を購入すると野菜飲料があたるキャンペーンや新商品紹介 (セコマ) や、視覚で野菜摂取量を測定できるベジチェックを使ったベジ選手権の取組報告や健康指標「ナトカリバランス」に関する研究報告 (カゴメ) を通じて「すこやか北海道 21」の目標達成に大きく寄与いただいています。

民間企業と連携を行うことで、道民の健康づくりに対する啓発がより一層図ることができると思うので、今後も様々な機会を通じて積極的に取り組んでいきたいと思えます。

3 都道府県世話役のつぶやき

●●●●●●●● 岐阜県 ●●●●●●●●

岐阜県立衛生専門学校 歯科衛生学科

技術主査兼教務主任 安井 真奈美



行歯会の皆さま、お世話になっております。

岐阜県の世話役をしています安井です。どうぞ、よろしく申し上げます。

いつも、皆さまの貴重な情報から、日々勉強させて頂いております。ありがとうございます。

現在、岐阜県においては、県職の歯科医師1名と歯科衛生士5名、市町村職の歯科医師1名と歯科衛生士22名、合計29名が行歯会に所属しております。

<岐阜県の紹介>

岐阜県といえば、最初に浮かぶものは鶺鴒だと思いますが、今では、昨年11月にニュースを賑わせた46万人集結！織田信長役を演じた「キムタク、岐阜に来る！」です。



ちなみに私はその日、キムタクに癒される？よりも、岐阜の北部にある下呂温泉と飛騨小坂の紅葉に癒されておりました。岐阜の見どころ&体験は多くありますが、今コロナ禍の私のおすすめは「温泉」と「大自然」です。人が少ない温泉にゆっくりと浸かり、大自然でしか味わえない新鮮な空気を吸い、青い空を見て癒されることが最高の心のデトックスになっています。岐阜にお越し頂いたら、是非！体験してみてください。

<最近のトピックス>

私は、現在歯科衛生士養成所で教員として勤務しておりますので、最新の教育内容についてお話しします。

令和4年度歯科衛生士国家試験出題基準が改定されました。出題基準については、時代の要請に応える歯科衛生士を確保する観点から、下記の出題について更なる充実を図り、資質向上を促進していく必要があるとされております。

- (1) 高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関連した、歯科衛生士として必要な高齢者や在宅・施設介護や病棟での対応に関する出題
- (2) 地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する出題
- (3) 口腔機能の維持・向上や摂食機能障害への対応に関する出題
- (4) 医療安全や職業倫理等に関する出題
- (5) 周術期等口腔機能管理に関する出題
- (6) 医療のグローバル化に伴い歯科衛生士としての国際貢献を踏まえた国際保健に関する出題

参考文献) 一般財団法人歯科医療振興財団 令和4年版歯科衛生士国家試験出題基準

歯科医療ニーズの拡大に伴い、歯科衛生士教育も更なる充実を図っております。今後の歯科衛生士に求められるものは「専門性の確立」であり、私たち現場で働く歯科衛生士が専門性を持ち、それを発揮することが、未来の歯科衛生士の道へと繋がると思っております。

行政の現場で働く皆さまの力と学校とが連携をして、歯科医療発展に向けて1歩ずつ前に進められたらと常に考えております。今後も、引き続きよろしく申し上げます。

福島県 郡山市保健所健康づくり課

主任 古川 利枝



<うつくしま・ふくしま>

行歯会の皆さま、いつも貴重な情報と刺激をありがとうございます。

「行歯会だより」は毎回とても楽しみにしており、まさか自分が執筆することになるとは…

私は生粋の「福島県民」、じっとり染みついた県民性は今も健在！最近では濃度が増しているような気がしません。行歯会の福島県PR大使としては「福島県」をPRする良い機会と捉え、重い腰（年のせい？）を（5cmくらい？）上げました（笑）

さて、私が住む「福島県」は猪苗代湖を中心にグルッと見渡すと磐梯山を始めとする山あり、海（いわき市・相双地区の海では今やフグや伊勢エビも釣れる！私も若い時に竿糸を垂らし「爆釣」を経験）あり！と四季折々いろいろな顔を見せてくれる自然溢れる、まさに「うつくしま・ふくしま」です。

もちろん、食文化も賑やかですよ～ 喜多方ラーメン（白河ラーメンもおススメ～）！会津蕎麦！福島牛！伊達鶏、銘菓「ままだおる」etc. …、加えて美味しいお米！銘酒も勢ぞろい！（きりがな～い）

福島県民は舌が超え、体重も肥え、様々な数値も超え、なんと！メタボ該当者、高血圧、糖尿病が多い！子どものむし歯、肥満も…、浮き彫りとなった県民の健康課題！ どうする福島県！

県民の「粘り強さ」「真面目さ」を活かしこの健康課題に県をあげて取り組んでいます。

<世話役のつ・ぶ・や・き>

私は郡山市保健所に勤務しており、現在は歯科衛生士4名（正職員2名、会任2名）で市民32万人の歯と口腔の健康づくりを担っております。

「コロナ禍」に振り回された時期（進行形ですが）、「もう勘弁して～」という気持ちの反面、感じたこと・得たものもたくさんあります。保健所に勤務してからこんなに所内が「1つのこと」に一致団結して取り組んだことがあったでしょうか！（違う意味でコロナってすごい…）

顔は知っている、でも名前は？名前は知っている、でも顔は？所内のコロナ対応で顔を合わせ話すようになり、意見を出し合い、係を超え、課を超え、部をまたぎ… たくさんの出会いがありました。話をすることで歯や口のことも気軽に相談する人も出てきました。（改めて、顔が見えるってすごい！）

さて、当市は2019年にSDGs未来都市に選定され、さらに「健康」をキーワードとした「自治体SDGsモデル事業」としても選定されました。現在モデル事業の中心事業として「全世代健康都市圏創造事業」を実施しており、まさに取組の真っ最中です。

郡山市も県同様の健康課題があり、この「課題解決」に向けて係を超え、課を超え、部をまたぎさらに市民協働で実現できるかを問われています！

どうする郡山市！『乞うご期待!?!』

「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、

掲載コンテンツを募集しています。

掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている編集担当宛にご連絡ください。

♪ 編集後記 ♪

今月号で編集担当を卒業します。快く執筆をお引き受け下さった執筆者の方々、そして会員の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。たよりの発行（メールリストへの一斉送信ボタンを押す！）は、毎回、なんとも言えないドキドキな瞬間でした。1年間、ありがとうございました。（條）



1月下旬、我が家の庭に雪が40センチくらい積もりました。ちょうどお休みの日だったので、朝8時くらいから隣近所みなさんと一緒に雪かき。それぞれの家の車が出せるように力を合わせ、あっという間に「お疲れ様でした〜」。チームワークを感じた時間でした。

この行歯会だよりも、（篠）先生がしっかりとサポートしてくださり、理事のみなさんも一緒に紙面作りを考えていただいているおかげで半年たちました。改めて、行歯会のチームワークを感じています。この号が皆様に見ていただく3月末には（篠）先生から（Y）先生にバトンタッチ。（篠）先生、本当にありがとうございました（島）

